

名 称	丹波亀山城惣構跡（宗福寺境内）
種 別	亀岡市指定文化財 史跡
指定基準	亀岡市指定文化財指定（選定）の基準 第5 亀岡市指定史跡名勝天然記念物 第1項 史跡（2）のうち城跡に関する遺跡
員 数	1
所 有 者	宗教法人 宗福寺 代表役員 服部 良誉 （同意書 別紙のとおり）
所 在 地	亀岡市矢田町26
指定調書	別紙のとおり
指定年月日	平成30年 月 日
参 考	面積 約955.02㎡ 境内地西側＝南北約56.6m（西側で計測） 東西約10.6m（北端で計測） 境内地南側＝東西約56.9m（南側で計測） 南北約12.0m（東端で計測） ※平面測量実測図は別添図面のとおり

指定調書（案）

名称 史跡 丹波亀山城惣構跡（宗福寺境内）

所在地 亀岡市矢田町20

所有者 宗教法人 宗福寺 代表役員 服部 良誉

所見

概要	<p>惣構とは、敵からの侵入を防ぐために、城下町を取り囲むように造成された「土塁」と「堀」で構成される防衛ラインのことである。</p> <p>丹波亀山城においては、北西の北町から南下し、紺屋町から東へ折れて、塩屋町、京町、西堅町、東堅町を通り、三宅町の昌壽院の辺りから北上して北古世町の光忠寺に至る総延長3キロほどが確認されている。</p> <p>丹波亀山城惣構跡の構造は、平地に造成されたものと、段丘を生かして造成されたものの2種類に大別されると考えられている。</p> <p>惣構跡が造成された時期は不明だが、正保元年（1644）より作成された『正保城絵図』所収「丹波国亀山城絵図」には、城下町を圍繞するように「御土居」と「堀」が描かれており、17世紀前半までには存在していたものと考えられる。</p>
所見	<p>宗福寺境内に残る惣構跡は、城下町の南側をめぐる丹波亀山城惣構跡の一部で、やや南に張り出す角地を構成する。全長は113.5mほど、幅が10～12m、比高0.9～2.4メートル（国土地理院「地理院地図」による参考数値）が残存しており、同じ惣構跡の他の部分と比べて状態の良いものである。</p> <p>当該の惣構跡には竹藪が繁茂しているが、竹藪は上記「丹波国亀山城絵図」にも描かれており、侵入を防ぐ目的で当初より存在していたものと推測され、その意味で江戸時代の景観を伝えるものと言える。</p> <p>以上のように、宗福寺境内に残る惣構跡は、近世の惣構のすがたを今に伝える貴重な文化財であり、亀山城跡の構造を研究する上でも重要資料となり得るものであり、亀岡市指定文化財指定に値する歴史的・学問的価値を有すると考える。</p>
参 考 資 料 等	<p>・仁木宏「「御土居」への道―戦国・織豊期における都市の展開―」（日本史研究会編『豊臣秀吉と京都』文理閣、2001年）</p> <p>・『新修 亀岡市史 本文編第二巻』亀岡市史編さん委員会、2004年</p> <p>・「丹波亀山城惣構跡保存会作成資料第2号」丹波亀山城惣構跡保存会、2016年</p>